

東商ゴム工業

創業55年のローラーメーカー

「小ロット、多品種、試作・量産問わず対応できるのが当社の強み。材料の選定からシャフトの調達まで、すべて工場で一貫生産できる体制が整っている」と語るのは、各種ローラーを製造する東商ゴム工業（本社：東京都墨田区、横芝工場：千葉県山武郡横芝光町）の末永大介社長（48歳）。2010年に創業者の末永富夫会長からバトンを引き継ぎ、2代目として舵取りを担っている。

横芝工場での一貫生産が強み

■東商ゴム工業のはじまり

同社は1966年に富夫会長が「東商ゴム」を立ち上げたことに始まる。富夫会長はもともと商社勤務。ゴム製造業とはまったく畑の違うところからの起業だった。そのころ、世の中にはさまざまなゴム材料が出回り始め、その性質に注目が集まっていた。富夫会長はそのゴムに着目し、会社を立ち上げた。立ち上げ当初は商社勤務の経験を生かし、メーカーから製品を買い付け、販売する業態だったが、取引先から「ゴム製品の製造をやってみてはどうか」というアドバイスを受け、製造に着手した。富夫会長は千葉県市川市にあった自宅を改造し、円筒研削盤を入れ、夫婦二人三脚で製造を開始。1969年には本社を墨田区両国（現在の本社所在地）に移転し、商号を「東商ゴム工業」に変更した。

■横芝工場を建設

製造が軌道に乗り、自宅が手狭になったことを受け、1973年に千葉県



一貫生産が強みの横芝工場（手前が押出成形機、奥が円筒研削盤）

横芝町（当時）に横芝工場を建設した。横芝町を選んだのは、富夫会長の母親の出身地であったことと、富夫会長の疎開先で、もともと土地勘があったためだ。その後、業容の拡大とともに工場を拡張していった。

■OAローラーの製造

大きな転機が訪れたのは1978年。ある取引先からOAローラーの注文が入った。売上の的にも大きな受注で、同社はOAローラーの製造に全身全霊を傾けた。最盛期には円筒研削盤が130台以上稼働し、従業員も70人余りを雇用。毎日4トントラックで7パレットを出荷するほど活況だった。

■潮目が変わる

時とともにOAローラーの受注は拡大し、新規設備を導入するなど、同社は対応に追われた。そのような中、2000年頃から潮目が変わり始めた。OA機器メーカーの生産が海外にシフトし始めたのだ。大介社長はちょうどそのころに同社に入社した。そして、2008年にリーマン・ショックが起こった。その影響は大きく、OA機器メーカーの海外生産シフトで苦戦を強いられていた同社にさらなる追い打ちをかけた。「あの当時は会社に来て何もやることのない日もあった」（大介社長）というほど、事業は停滞した。

■大介氏が社長に就任

会社が苦境に立たされている2010年、当時39歳だった大介氏が社長に



就任した。「最初は父に反対された。自分が命を削って育ててきた会社を簡単には譲りたくない気持ちもあっただろうし、私の身を心配してくれていたのかもしれない」と大介社長は当時を振り返る。

就任当時はどこに何をしにいったのか分からず、取引先も思うように増えなかった。それでも大介社長はさまざまな展示会を回り、売り込みに必死になって取り組んだ。その後、そうした努力が実を結び、商談会に呼ばれるようになった。ニーズに対応するため、製品のラインアップを拡大し、取引先も少しずつ増えていった。現在は170社以上と取引があり、売上構成比はOAローラー2割に対してその他が8割となっている。

■創業55周年

2019年、同社は創業55周年を迎えた。大介社長はこれを機に、経営理念を『恕の精神に基づき従業員の幸福の実現を糧とし事業の永続的發展に努めます』に変更した。「恕の精神」とは孔子の論語からの引用で、「どれだけ相手の立場に立って物事を考えることができるか」という意味がある。「事業を継続していくためには従業員の生活が重要。従業員がいなければ会社は成り立たないし、会社がなければ私の存在意義もない」と大介社長は経営理念に込めた思いを語る。

また、今年10月には本社から財務・経理・総務部門を横芝工場に移管した。「移管によって、工場にいれば会社の



創業者・会長の末永富夫氏（右）と社長末永大介氏

して、2018年10月にはホームページ（<http://www.toshorubber.jp/>）をリニューアルした。

■経営課題

目下の経営課題は陥没価格の是正だ。「昔から取引のある製品は利益率が低い。これまで本当にコスト競争で苦しんできた。他社が50銭下げたら、当社は60銭下げる、ということをやってきた。それでも結局は海外に生産がシフトしてしまった。適正な利潤をあげていかないと従業員に還元できないし、会社も投資だけでなく、不測の事態に対応するための貯蓄もできない。適正な価格での販売を通して経営基盤を強化し、次の世代へと事業を受け継いでいきたい」と大介社長は語る。

■強み

同社の強みはOAローラーの製造で培ってきた技術にある。金型、押出し共に対応することができ、円筒研削盤も50台以上有している。ゴムに関しては材料の選定やシャフトの調達ま

「恕の精神」で業容拡大に取り組む

すべてを把握することができるようになった。近い将来、増築を繰り返してきた横芝工場を一棟に集約し、意思決定の迅速化や情報共有の強化、生産の効率化を図りたい」（大介社長）方針だ。

■「ラボカフェ」開設へ

大介社長は2023年中に、「ラボカフェ」を開設する予定だ。ラボカフェとは、ゴムの評価や配合を気軽に相談できるカフェのような研究所。ゴム業界だけでなく、異業種交流も積極的に行い、国内だけでなく海外からの要望にも応えていきたいという。また、モノづくりに興味を持ってもらえるように小中学生にもラボカフェを開放したいという。

■ネットビジネス

同社はネットビジネスにも注力していく。「汎用品はネットで探せばいくらでも買うことができる。当社が目指しているのは、例えばローラーなら、ユーザーが外径も内径も材質も選べる完全オーダーメイド品の販売だ」（大介社長）と意気込む。その一環と

で、横芝工場で一貫生産が可能だ。「当社なら小ロットでも、一本・一個からでも、図面がなくても対応できる。小ロット、多品種、試作・量産、どのような要望でもまずは連絡してほしい」と大介社長はアピールする。

■初の自社製品「フリーゴム」

同社では、創業以来初となる自社製品「フリーゴム」を年内に販売する計画だ。フリーゴムの粘土のようなゴムで、オーブントースターによってゴムに弾性を付与することができ、また、硬度も変えることができる。介護関係やアクセサリ分野をターゲットに展開していく方針だ。

大学卒業後、アメリカ・ロサンゼルスに3年間留学経験のある大介社長。「よく言えば留学だが、毎日フラフラしていただけ。遊学と言った方が正しいかもしれない」と笑う。社長を継いで9年目の大介社長。その目は「恕の精神」で、しっかりと将来を見据えている。

Tosho Rubber Industries, Inc.

東商ゴム工業（株）だからできる事。
専用配合設計でジャンルを問わず「ゴム」で貢献いたします。

4つのポイント

- 適正種選定
- 専用配合設計
- 試作対応
- 小ロット対応

その「ゴム」に満足してますか？

「くいたら」

<http://toshorubber.jp/>

東商ゴム工業株式会社